

## G1マイル CS

### <最終見解>

先週の京都芝はミッキーロケット産駒が 3 勝。

同馬は欧州指向の強いキングマンボ系。

エリザベス女王杯は内枠のトニービン持ちが 2、3 着。

直線スピード一辺倒勝負では厳しい馬場。

キングマンボ、トニービン持ちである程度は流れに乗れる馬が有利な馬場を想定。

本命はソウルラッシュ。

父キングマンボ系でトニービン持ち。

土曜の同コース最終レースもルーラーシップ産駒が単勝 1330 円で 1 着。

春のマイラーズ C ほど直線スピードは発揮しにくい馬場ならば逆転も可能。

相手妙味はダノンザキッド。

先週エリザベス女王杯もハーツクライ持ちが 2、3 着。2 着馬はデインヒル持ち。

欧州指向の馬カスタミナに優れた先行馬。

このメンバーなら格上位で適性も恵まれれば馬券圏内に十分入れる馬。

セリフォスは、ダイワメジャー産駒。  
マイル戦の種牡馬の格ならディープ、ハーツと同レベル。  
ダイワメジャー晩年で成熟期の育成、配合馬。

充実の4歳。菊花賞のドウレッツァ、エリザベス女王杯のブレイディヴェーグは、  
ここがピークで力を発揮した時の最大値がメンバー中最上位だろうという見立てで本命にしましたが、  
それと同様のアプローチで狙うならこの馬。ただし、乗り難いので、そこを引き出せないリスクはあります。

力を出し切った時に一番強いのはセリフォス。  
力を出せる確率が高いのはソウルラッシュという見立て。

シュネルマイスターの本質はタメればタメるほど直線スピードが高くなる中距離馬。  
今の馬場は、タメればタメるほど、前にいる馬を差し切れるスピードが出せる馬場ではないので、  
取りこぼし(連対圏外)のリスクは高いのではないのでしょうか。